日本医療機能評価機構認定病院
医療法人　幸生会
琵琶湖中央病院

病院だより

第 122 号
2021/3/15

COVID-19 罹患後のリハビリテーションについて

回復期リハビリテーション病棟において、「肺炎後の廃用症候群」は対象疾患として明記されており「筋力低下」「心肺機能低下」等の改善を目的にリハビリが実施されます。一方、COVID-19 罹患後の廃用症候群を同様に対応することは一考する必要があります。

COVID-19 罹患中の理学療法については呼吸リハビリや運動療法の有効性が報告されていますが、廃用に至った症例のリハビリについては報告が少ないのが現状です。COVID-19 罹患後の症状は下記グラフ・表で報告されています。（引用：日本呼吸器学会　COVID-19 のいわゆる「後遺症」について）

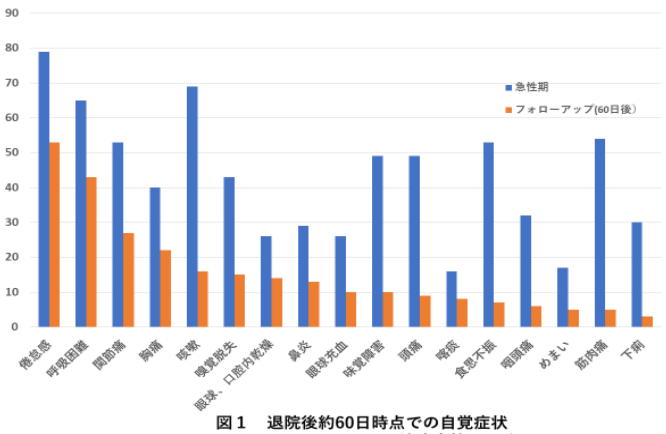

図１　退院後約60日時点での自覚症状

1 肺、血管、心臓などへの恒久的障害
2.個室やICU での隔離による不安やストレスなど拘禁反応的なもの
3.挿管人工呼吸管理等による筋力低下
そのほか症例によっては薬剤の副作用なども関与する可能性がある。

このような後遺症が報告されている COVID-19 罹患後のリハビリは筋力増強や心肺機能強化だけでなく、栄養管理等の多面的リハビリが必要と考えます。

また、肺・血管・心臓の恒久的障害の存在より、更なる安全性に注目が必要となります。リハビリ実施中の血圧や血中酸素濃度等の変化と自覚症状を細かく観察しながら行う必要があり、従来の中止基準の見直し等が今後の報告により必要と考えます。当面は血圧変動の少ない範囲で運動することが安全性確保に必要と思われます。

リハビリ療法部　部長　田中隆司

病棟からこんにちは④

今回は、以前にご紹介した「遊びリテーション(遊びリハビリテーション)」をもっと知りたい！との読者からのありがたい声にお応えすべく、力を入れている 4A 病棟を再取材してきました。

遊びリテーションとは退院後の自宅生活の質を上げていくためにリハビリの一環として病棟でできる制作のほかボーリングや風船バレー、ジェスチャーゲーム等の遊びを取り入れたリハビリテーション活動です。今回は制作活動をご紹介。時節の行事を盛り込み閉鎖的な空間であっても季節を感じ、作品を通して患者様にコミュニケーションの場を提供し、脳の活性化や身体機能の向上を目指しています。作品は患者様と共に作り展示して歩行訓練の目標地にする等リハビリに利用しています。

今月はひな人形を作りました。パーツを張り合わせ、お雛様とお内裏様の完成。私も参加しましたが、これが意外と細かくて糊付けに一苦労。菱餅や桃の花に見立てた折り紙を添えれば素敵な壁飾りの完成です。材料は同じ色紙でも出来上がりは人それぞれ。不思議と作った方のお顔によく似たひな人形が並びました。

「もっと作らせてほしい。かわいらしくできていく道順が楽しくて今日は昔にかえり夢中で作りました。」と、いつも仲良しのお二人は少し物足りない様子。別の方には展示されたご自分の作品を見て手を合わせてお礼を言われたので、こちらも思わず手を重ねてお礼を言いました。患者様と病棟スタッフの努力の賜物ですね。

地域連携部　病院だよりチーム

つぶやき

顔見知りの外来の患者様が五十肩でお困り、とのこと。「痛い」だけで気分も滅入りますね。日常生活にひと工夫をすることで痛みを和らげる方法をリハビリスタッフに尋ねてみました。一般的に寝る時は痛い方の肩にクッション等を敷いて支える、袖を通す時は痛む方から通し、脱ぐ時は痛くない方から。冷やさないことが大切だそうです。お大事に。　　地域連携部